

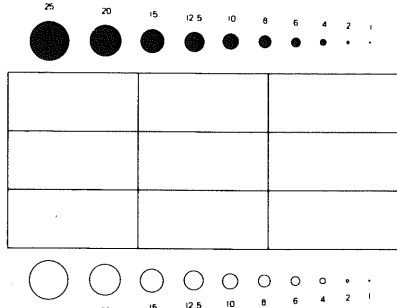
A-2. 粒子分析用目盛板 (特に標記ない場合はカバーガラスなし)

(基板径: 16mm、19mm、21mmの中より選択)

特に粒子の数が少量で直径50ミクロンより小さい粒子、たとえば砂や土の粒子、植物の種、肥料、研磨剤、液体の小滴、染料、繊維や細いちりなどの計数に適している。

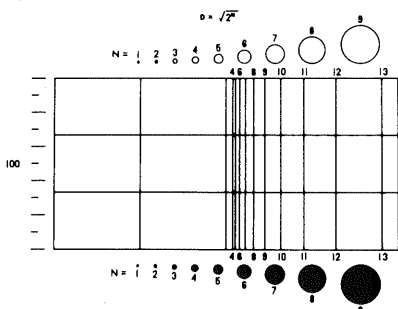
分析の原則はパターン上の大きさの異なる黒球と白球に重ねて行い、色の濃い粒子は黒球に、色の薄いまたは透明な粒子は白球に対比させる。

◆パタソン型 NG 1 コード 3739



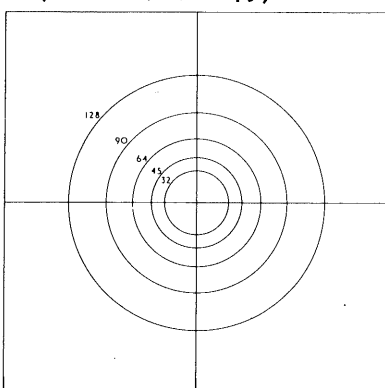
中央部の長方形は9個に等分、上下の黒白球は、それぞれ10個。記入の数字は直径を単位数で表したものである。大きい長方形水平辺は250単位。(球体1単位=18 μ)

◆ポートン型 NG 2 コード 3749



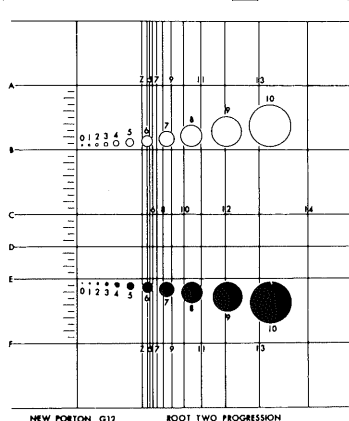
球体は直径で $\sqrt{2}$ の倍増率。長方形の右側の区画も同じ倍増率で区分してあるので標本をメカにのせて目盛上を通して大きさを区分する。数字は番号。(球体1単位=35 μ)

◆フェアズ型 NG 5 (カバーガラス付) コード 3398



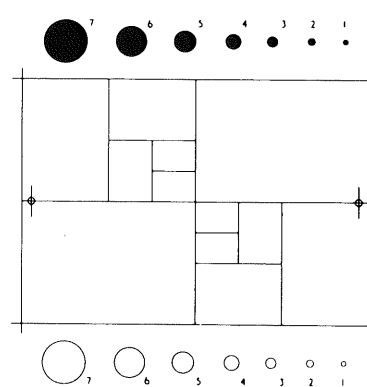
分析粒子が大きい場合、NG 2型目盛と共に使用します。全体の大きさは128:1、円の大きさは $\sqrt{2}$ の倍増率。(但し、NG 2目盛使用の場合と同じ顕微鏡、接眼レンズ、対物レンズを使用のこと)

◆ニューポートン型 NG12



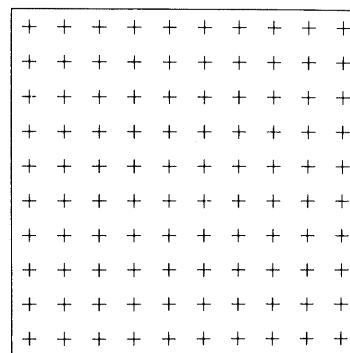
コード 2886
黒球と白球とを中心接近させて配置したことにより、標本との対比が容易になりメカをたてに移動して順次に能率よく進行できる。

◆英国スタンダード型 NG10 コード 2885



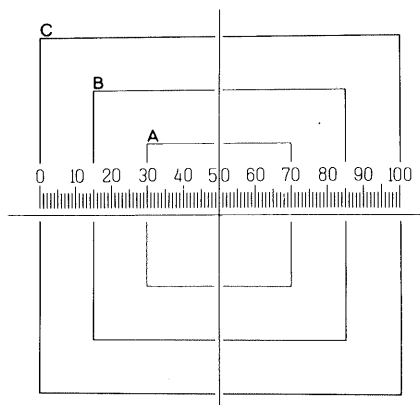
球体は面積で倍々のシリーズ、直径では $\sqrt{2}$ 倍増率。粒子の大きさは該当球体の両側の球体内の大きさとする。中央の長方形は $\frac{1}{2}$ を継続して、各粒子の大きさ別にグループ形成。150ミクロンから0.38ミクロンの間の粒子に使用可能。

◆土壌分析 NG14 コード 2884



標準的全形10×10mmの土壌粒子の計数。分析用。

◆ダスト分析トムソン型 G23(カバーガラス付)



コード 3399
4mm角、7mm角、10mm角内のダスト粒子の計数、分析に使用。中央のスケールにより任意四辺形寸法を想定が可能。

最小四辺形 4 × 4 mm